

## 1 元ポルノ女優北原ちあきさん、得意技は「金玉ツカミ」

まずは思い出から。

北原ちあきさんといえば、1980年代前半に活躍したポルノ女優さんですが、その全盛当時、某男性週刊誌のインタビュアーでこんなことを言っています。元の雑誌をなくしてしまったので、記憶で再現してみました。

聞き手「空手を習ってるんだって。痴漢にあったときはどうするの？」

北原「回し蹴りが得意なんだけど、たいていは『金玉つかみ』でやっつけるわよ」



聞き手「金玉つかみ？」

北原「(手でやって見せながら) 思い切りつかんでぎゅっとねじる。ときにはそのままママを握りつぶす」

聞き手「イタソー(青ざめて話題を変える)」

話題を変えるな! と雑誌に向かって叫んだ私でしたが、そんな北原さん、今はどこで何をしてらっしゃるのでしょうか。

## 2 グラドル三枝美央さん、痴漢を金蹴りで撃退

94センチのバストを武器に、巨乳グラビアアイドルとして活躍していた三枝美央さん。オリジナルビデオドラマ『美乳大作戦 メスバイ』(99年)では、やはり巨乳アイドルとしてならした桜庭あつこさんと奇怪な巨乳合戦を演じてくれたおっぱい星人の偶像でしたけど、高校時代に痴漢に襲われたことがあったそうです。

で、三枝さんどうしたかというと、

「夢中になって股間に二発膝蹴りして逃げました」

## 3 陣内貴美子さん、強盗を股間蹴りで撃退



2001年6月、元バトミントン選手でスポーツキャスターの陣内さん。強盗に入られ、包丁を突きつけられて怪我をしながらも、旦那さんが押さえつけた強盗に果敢に股間蹴り。スポーツ髪

に「股間蹴り」「急所蹴り」の文字が踊ってBBファンを狂喜させました。どこを蹴ったのですか? との取材陣の質問に答えて曰く、

「股間……ですかね?」

の名台詞。

ただし陣内さん、その夜以来、怖くて眠れない日々が続いたとか。私たちにとっては興奮するニュースであっても、当事者にとっては笑い事ではありません。不謹慎な妄想は慎むべきでしょう。

#### 4 某教壇教祖の娘、気に入らぬ幹部に股間蹴り

五年ほど前に某スポーツ紙の片隅に載った記事です。

東京都内で薬物テロ事件を引き起し、ついに教祖以下多くの幹部たちが逮捕されながら、いまも名前を変えて活動をつづけている某教団。その三女で「正太師」の称号を持つホーリーネーム・アー〇ヤリー。

誘拐事件を起こして逮捕された彼女ですが、教祖の娘としてわがまま放題に育てられたせい、切れると暴力に訴える癖があるらしく、**気に入らないことがあると幹部の急所を蹴って憂さを晴らすのだとか。**

事件当時は中学生くらい年齢で、十六歳にしてお縄付きの経歴を持ってしまった彼女、いつちやなんですがあんな小娘に股間を蹴られながら、反抗もできなかった幹部たちの屈辱感たるや、

M的嗜好をもつ男性にはたまらないものがあつたのではないのでしょうか。これで美人だったらならぬ……なんて不謹慎な妄想は慎みましよう。

#### 5 急所を蹴られた男の子の25%に精神障害が！

急所を蹴られることは、単に肉体的な痛みだけではなく、精神的な傷をも負うものらしいです。1995年に、こんな記事がアメリカで流れました。

少年の10人に1人は鞆丸を蹴られた経験あり

アメリカ在住の少年の10人に1人は、他の児童（おもに少女）から鞆丸を蹴られた経験があることが調査により判明した。

鞆丸蹴りはハリウッド映画ではお馴染みだが、調査者は笑い事ではすまないと言う。肉体的にだけではなく精神的に重大な傷を負わせるからだ。

「あの激しい苦痛が、被害を受けた少年たちのその後にどんな影響を及ぼすか、想像に難くないと思います」とニューハンプシャー大学家庭生活研究所長デビッド・フィンクラー

は言う。

フィンクラーと同僚のジャニス・ウォーラックは昨年、10歳から16歳までの、1042人の少年と958人の少女を対象に、電話によるアンケート調査を行った。その結果は、全米メデイカル協会の広報誌「ウェンズデー・ジャーナル」に掲載された。以下概略。

・ 辜丸蹴りのほとんどは7年生から8年生の間に起こる。ちょうど思春期のはじめ、生殖器への関心が高まった年齢である。

・ **辜丸蹴りを行った児童の40パーセントは、セクハラにあった少女である。**

・ 辜丸を蹴られた少年のうち、近視や喘息などの障害を持つ少年は、そうでない少年にくらべて 3倍も多い。

・ 辜丸を蹴られた少年の一年後の経過を見れば、25パーセントの少年は行動が不活発になり、12パーセントの少年にトラウマから来るストレスの症状が見られる。

「私が思春期のころは、ベルトの下は攻撃しないというルールがありました」とフィンクラーは言う。「しかし今日では、辜丸蹴りは多くの映画に登場します。たいていの少年少女は、辜丸蹴りを許容すべきものと考えているようです」

(デトロイト・ニュース1995年12月7日付)

## 6 誤報？ セブ島で日本人女性が強盗を金蹴り撃退！

4年前、海外の某掲示板でこんなニュースが紹介されていました。2002年12月27日付のAsahi Dailyに掲載されていたというのですが・・・

### 日本人女性、強盗を撃退

フィリピンのセブ島で、二人の日本人女性旅客（ともに24歳）が、3人の銃で武装した強盗団に襲われた。強盗たちは、彼女らのハンドバッグを奪い、彼女らをバイクに乗せようとした。

ところが、2人の女性のうち1人は、護身術でこれに応えた。一人の強盗の股間に跳び蹴りを浴びせ、もう1人の首に空手チョップを打ち込んだのだ。もう1人の女性は別の強盗につかみかかり、**相手がノックアウトされるまで、股間に膝蹴りを浴びせ続けたのだ。**

女性たちはハンドバッグを取り戻すと、強盗たちから銃を奪い取り、空に向かって一発撃った。強盗たちは悲鳴をあげて逃げ去った。

彼女らは地元警察に報告し、ピストルを預けた。二人とも無事で怪我はなく、日本に帰国した。

まあ、これが事実なら、マニアにとつては興奮ものの記事ですが、実際にはそうとう潤色された記事だということが、後に判明します。

女性たちが3人組の強盗に襲われ、無事に帰国できたことだけは事実なんです。帰国した女性は新聞報道を見てびっくり仰天、真実を告白したというわけです。

「朝日新聞」12月24日付け夕刊によりまずと、実際の経緯は次のようなものでした。

事件が起きたのは午後9時ごろ。親友(24)と2人で、セブ本島と橋でつながるマクタン島を訪れていた。

観光客でにぎわう料理店で食事と民族舞踊を楽しみ、三輪タクシーに乗った。大通りの前で一時停止したとき、突然、20代ぐらいと30代ぐらいの男が乗り込んできた。1人は乗客席に、もう1人は運転手のそばに座った。ともに拳銃を手にしていた。

男は車外に見えないように女性の足に拳銃を押しつけた。大通りを数百メートル進み、暗い路地に入って止まると、女性たちからカメラと、現金3千ペソ(約7千円)が入ったバッグを奪った。男たちは現地語で会話をしていたが、女性たちには話しかけなかったという。

3人目の男がオートバイで現れた。女性は男2人に挟まれてバイクに乗せられた。「ヘルプミー」と言ったが、男は首を振った。脇腹に銃が押しつけられた。バイクは大通りに出て、

ゆっくりと進んだ。

「連れて行かれたらだめ。絶対死ねない」

銃口を外そうともみ合ううち、後ろの男とバイクから転がり落ちた。道路ぎわで立ち上がって銃の奪い合いになった。

女性の左手の中指が銃の引き金にかかった。男の手は銃の取っ手を握った。男が左手にかみついてきた。男の頭を右手でつかんだ。長く伸びたツメが男の目に入った。男は痛がってひるんだ。女性は銃を奪った。

逃げる男に向けて1発発砲した。「パン」。乾いた音がした。反動で体が後方にのけぞり、両手のはじかれた。

銃を手にするのは初めてだった。なぜ発射できたのかわからない。

女性は、残る強盗に捕まったままの親友のところに戻った。銃を手にしたはまだ。驚いた男は、2、3メートル先まで来た女性に向けて銃の引き金を引いた。「カチツ」と音がしたが弾は出なかった。

男は逃げた。タクシー運転手も去った。親友と手を取って泣いた。別の三輪タクシーを拾い、ホテルへ戻った。

「空手チョップと跳びげりで強盗に反撃」。日本に戻り、事件が報道されたのを知った。女性はこの1年半、豪州に滞在し、一時帰国中の旅行で被害に遭った。スポーツが苦手で、

武道の心得もない。体も小さい。「夢中で抵抗しただけ」と語る。

「ホテルのスタッフに励まされ、温かい心遣いに救われた」と話している。

金蹴りで銃を持った強盗を撃退するなんて、やはり現実にはありそうもない話。くれぐれも女性の方はご用心を。

## 7 日本の金蹴りビデオが英字新聞に

数年前のことです。海外のBB系掲示板を覗いていたら、某日本の新聞の英語版 (manichi daily news 2002.9.2) に以下の記事が掲載されました。どうやら週刊大衆 (2002年9月26日号) の記事からとったらしいのですが、ぼくはその週刊誌の記事を読んでいません。記事を翻訳してここに掲載します。実際の記事と比べてみてください、。。。

New adult videos deal a low blow to manhood(text by ryan cone)

もし、高給取りの野球選手が、速球を股間にぶつけられて、バレエのプリマドンナのよう

な仕事を演じているのを見たら、どう感じるだろうか？ おそらく、同情を禁じ得ないことだろう。だが、そんな同情は、今日の日本で、新しいジャンルのアダルトビデオが人気上昇していることを知れば、どこかに吹き飛んでしまうに違いない。週刊大衆によると、多くの人がこんなビデオを眺めて楽しんでるそうだ。可愛い女の子が思い切り、裸の男性の脚と脚の間を蹴り上げるビデオを。

驚くべきことは、この玉蹴り (tamakeri/ball kicking) ビデオのお得意さんは、男性優位社会でストレスをため込んだ若い女性ではなく、その多くは急所を痛めつけられる妄想に耽る若い男性だということだ。

「その手のアダルトビデオが話題になりはじめたのは、約一年前からですね。最初は、マニアの間で流行したのですが、今では、もっと幅広い人気を得て、静かなブームになりつつあります」

アダルトビデオ評論家のタカダ・ジローは週刊大衆の取材にそう答えている。

「最初は、それらのビデオは、小さなインディペンデント系のメーカーが創っていました。でも、今や大手の会社も参入しています。全部で100のタイトルが発売されているんじゃないでしょうか。いわゆるマゾヒスティックな男性向けの内容で、ただひたすら股間を蹴る

だけの作品もあります」

「多くのビデオは最後にはセックスで終わります。ほとんどが販売用に作られています。20パーセントくらいの作品はレンタル市場に出されています。それが、女性のファンも開拓しているみたいですね」

大学生のアキラ（仮名）のような、玉蹴りビデオが待ち遠しいファンもいる。

「最近、ガールフレンドに蹴ってくれと頼んだんだけど、彼女はまるでぼくを変態みたいに見ただけだった」と彼は言う。「だからビデオを見るしかないんだ。苦しそうであればあるほど、興奮も大きいんだよ」

アダルトビデオ業界で長く働いているユータ（仮名）は、大学生の不満に異議を唱える。

「本当に蹴られたことがあるなら、そんなふうには思わないはずだ。だって地獄のような苦しみなんだから」と彼は言う。「ヴァーチャルリアリティだから楽しめるんだよ。その手の映画のポイントは、頼めばどんなことでもしてくれる女性をゲットできる点にあるんだ」

ライターのハシモト・ノブヒロは、玉蹴りビデオの魅力について別の見方をしている。

「男性の男根を傷つけるような映画が、なぜ、この男根主義で動いている国で売れているのか？ それは、男性なら誰でも一種のマゾヒズムを持っているからさ」と彼は週刊大衆に述べている。

元ポルノ男優で四年前からアダルトビデオ製作に転じたターザン・ヤギは、玉蹴りビデオ製作の推進役の一人だ。

「プロの男優は使えない、男性の最大の急所を蹴られる映画ではね。もし彼らを使ったら、彼らは仕事を失ってしまう。だから、SM雑誌やインターネットに募集広告を載せて、玉蹴りビデオに出演してくれる男性を捜すんだ。200人以上の応募があったよ。採用基準はとくにない。あえてひとつ挙げれば、睾丸を蹴られた後でも勃起させられるってことだ」

ヤギは笑いながら、週刊大衆に語っている。

「急所を蹴飛ばされてよろこぶフェチだなんて、他人には言えるもんじゃない。だから、応募してきた連中は、同じ趣味の持ち主が一カ所に集まるわけだから、すぐ仲良くなる。彼らのなかで一番尊敬されるのは、何回蹴られても、勃起しつづけられるやつなんだ」

「玉蹴りされてよろこぶ連中は、僕らが言うところのエゴイステイックなマゾヒストだ。マゾヒストのくせに、どんなふうにも痛つけられたいか要求してくる。たとえば、苦痛をより高めるために、女の子に蹴られている間、目隠しをしてほしいと要求したやつがいた。この手の連中は、ペニスや血だらけになるうが、睾丸が青虫みたいに垂れ下がろうが、その間の瞬間瞬間を愛してるんだ」

「映画を買うのは、このアイデアで想像力を駆使するタイプだね」

ヤギは、こうした映画は、出演している女の子にとっても同じように魅力的だと言う。

「女の子の多くは、エージェンシーに登録されている女優だ。彼女らのほとんどはレギュラーの仕事を持っていない。ほとんど仕事のない女の子が、エージェンシーが**やっと見つけて来た仕事**が**玉蹴りビデオだと知ったら、怒りは頂点に達する**」と彼は言う。「彼女らが一日とため込んだストレスと怒りが、撮影時に吐き出され、彼女らに全力を出させるわけだ」  
日本をほぼ征服したヤギだが、決して満足はしていない。  
「100人の男女を無人島に集めて、玉蹴りビデオの大作を作ろうというプランもある」とヤギは週刊大衆に語っている。「僕は、玉蹴りが日本だけで人気を得るだけというのは望まない。世界中に広めていきたい」

その後、「100人の男女を無人島に集めた玉蹴りビデオ」は発表されていないようです。